

令和7年度 三つの方針（スクール・ポリシー）

学校名	富山県立富山高等学校
-----	------------

1 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

“ 自学・自楽（じがく）する18歳へ ”

グローバルな視点を持って、未来社会と自分の将来像との重なりを認識し、「発展的未来」の創造に役割を果たすため、次の資質・能力の育成を目指す。

- ① 自律性 … 3年間の学びを通して深めた教養と自己理解、主体性によって、次のステージでも能力を継続的に伸長させ、躍動できる。
- ② 対話力 … 自らの疑問・違和感や社会から託された課題の解決法を、事実に基づく合理的思索と、周囲との協働、対話によって探究できる。
- ③ 創造力 … 「慎重」と「敢為」の止揚を体現し、社会風潮に左右されない価値基準を備え、試行錯誤の蓄積の上に、自身や社会の最適解を見定められる。

2 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

“ 慎重自ら持し 敢為事に当る ”

校訓「慎重敢為」を踏まえ、次のとおり実践する。

- ① 慎重 … 課題に対する深い思慮を支える知識技能と、対話力の習得を目指し、教科横断的な思考力を養う授業とする。
- ② 敢為 … 正解の定まらない事項について躊躇せずに挑み、探究し、創造する姿勢を高められる環境とする。

「慎重」と「敢為」は対立概念ではなく、その資質能力の高まりにより止揚される。「公共」を富山高校の「リベラルアーツ」の中心に据え、「現代の国語」「言語文化」の目標「論理的に考える力や深く共感したりする力をのばす」と連携させる。そして、社会に対する関心を深め、批判的思考力を高めながら「現在」「未来」「発展的未来」それぞれについて考察を深めていく。こうして富高生は富山高校だけでなく、地域社会、国の主体的存在であることを自覚し、校内、校外での様々な活動を、その学習内容の実践、反省の機会とすることができるようになる。

こうした富山高校の学びは、「富山県教育のパイオニア」として「発展的未来」の体現を目指す富山高校生と教職員の協働によって初めて実現を見る。

3 入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

“ 学びたきもの つどう ”

創校の志「学びたきもの つどう」の伝統を継承し発展させる志のある、次のような生徒の入学を、心から歓迎する。

- ① 「学習」の段階から、「学問」の世界へ羽ばたきたいと考える者
- ② 日常の疑問や違和感を大切にし、知りたい、理解したいという思いに繋げようとする者
- ③ 学友や教職員の助言・支援に真摯に向き合う、しなやかな感性を高めようとする者